

電離圏定常観測データから見る都市雑音の変遷について Long-term variation of radio noise detected from ionospheric observation

石井 守^{1*}, 加藤 久雄¹
Mamoru Ishii^{1*}, Hisao Kato¹

¹ 情報通信研究機構
¹NICT

情報通信研究機構では、国際地球年（IGY：1957年）以来半世紀以上に亘り、国内および南極での電離圏観測を定常的に行っており、通信・放送・測位の安定的運用に利用されている。これらのデータは1～30MHzの短波帯を送受信しており、人工的な電波源からの混信が常にみられるが、この変遷を追うことにより、各観測点近傍での都市雑音の変遷が推定できる可能性がある。今回の解析では、日本国内4観測所（稚内・国分寺・山川・沖縄）での10年程度のデータについて解析する。初期結果としては2003年からの10年間で、特に国分寺局において1～3MHz付近の雑音の増加が顕著である。近年、LED等からの不要電波の発生によるトラブルの報告事例もあることから、この関連について検討する。

キーワード: 電波伝搬, 都市雑音, イオノゾンデ, 長期変動
Keywords: radio propagation, radio noise, ionosonde, long-term variation